

令和 5 年度 第 1 回美術館協議会

1 日 時 令和 5 年 6 月 29 日(木)10:00～12:00

2 開催場所 みき歴史資料館 3 階講座室

3 議 題

(1) 報告事項(別紙1)

ア 令和4年度 入館者状況

イ 令和5年度 美術館事業の現況

(2) 協議事項

ア 令和6年度 展示事業活動計画(案)(別紙2)

イ 令和6年度 展示事業計画(案)について(別紙3)

ウ その他 上田桑鳩作品について

4 出席者

(1) 委員 山下泰生会長、石田満美副会長、岩本充洋
公森 仁、高谷美貴子、米村 環

(2) 事務局 本岡教育総務部長、手島文化・スポーツ課長兼館長
西馬副課長、向山美術館専門員、橋本事務職員
和田事務職員

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人の数 0人

7 会議内容

開会 会長開会の挨拶

-事務局報告-(1) 報告事項(別紙1)

ア 令和4年度入館者状況

イ 令和5年度 美術館事業の現況

事務局: 令和4年度の入館者状況について報告。毎月約500人が来館。2月・3月・5月は入館者数が1000人を超えた。令和5年1月、三木市美術協会個展 梓の二人展で木版画ワークショップ(10日実施)参加者は100人を超えた。

7月アート・ティーン公募展は351人の来館があった。ターゲットの偏りがあるので夏休みに企画を行うなど、来館者の確保を検討する。2月いそのゆか展、吉川小学校対象チョークアートワークショップ、来館者が自由に描き込めるスペースが人気、来館者は1000人超であった。3月山田貴弘展は2000人超の来館者であった。同時期に開催したお雛様スタンプラリーで、美術館からお渡しする景品は山田貴裕さんの作品をモチーフにしたカードを使用した。サンテレビの取材、三木東中学校対象ワークショップ実施。6月池内悦子展、来館者数1339人。ディスカッション開催、ワークショップは吉川小学校、豊地小学校対象。「ココロげしき」100号の作品を寄贈いただく予定。

-事務局報告-(2) 協議事項

ア 令和6年度 展示事業活動計画(案)

事務局：前年度より堀光コレクション展4月14日まで。4月27日～5月12日三木市美術協会の洋画部会展開催予定。5月25日～6月23日伊丹三樹彦展、仮題「書俳と写俳」。三木市の伊丹三樹彦三美会の協力を得る。作家の長女伊丹啓子さん(東京で出版社をされている)に、作品、小物、書俳の軸装された書をお借りする。その軸を三木市に寄贈したいと申し出があった。写俳は静岡の俳句会と美術館専門員の方で連絡を取り進める。また、数年前に伊丹三樹彦展開催時、図書館で作家の本を展示していたので、図書館と同時開催が出来ないか検討中。8月3日からアート・ティーン公募展。伊丹三樹彦展とアート・ティーン公募展の間6月29日～7月21日を個展期間としてキープしている。アート・ティーン後8月30日～9月29日仮押さえ、市制施行70周年記念事業上田桑鳩展「桑鳩の宇宙」特別企画展として開催予定。特別企画展ING兵庫美術展は10月8日～11月5日森の風美術館と同時開催。12月7日～22日第49回グループしぶがき展。1月11日～三木市美術協会展は固定枠。年度末に前回前々回から希望のあった木版画展を開催予定。作家さん方から展示できる旨お返事いただいている。

会長：確定している展示の枠はどれか

専門員：伊丹三樹彦展は三美会さんに協力いただくので固定。ING兵庫美術展は三木山森林公園森の風美術館との同時開催なので固定。美術協会の部会展枠、個展枠、グループしぶがき展枠は、この日程の前後で開催予定。

副会長：ING兵庫美術展はどのような美術展か。

専門員:ING 兵庫は兵庫県内の作家グループ。今回はING 朝来で開催。地元兵庫県で次世代の芸術文化を育みたいとワークショップを申し出下されている。

会長:委員から承った意見。来年度事業に関係し、令和 6 年市制 70 周年の記念イベントに、第 70 回三木市展と連携した企画展、例えば市展歴代市長賞作品展などを考えてはという意見。まず可能かどうか。新たな企画をやるのではなく、決まっている企画の中から 70 周年記念とタイアップして位置づけるという考え方。来年度市制 70 周年という何を何も謳わないというのもどうか。

事務局:三木市展は毎年 2 月に開催しているが会場に展示するのは難しい。実施するとすると美術館 6 年度の計画で考えることになる。歴代市長賞受賞者に確認が必要。

会長:歴代市長賞作品展にこだわる必要はない。70 周年を美術館側で打ち出せないか。

事務局:ING 兵庫美術展、伊丹三樹彦展は三木市の記念事業にふさわしい展示と考えている。

副会長:三木の神沢知久さんの作品をどうするのか検討していただきたい。過去、図書館での伊丹三樹彦展は 100 冊ほど著書を展示したそうだが、例えばその図書館のスペースに神沢知久さんの展示をする、みき歴史資料館 2 階に展示する、そういう意見もある。

事務局:伊丹三樹彦展は図書館との共同開催、図書館での展示も検討する。

校長:令和 6 年度で小・中学生対象のワークショップが可能か。先生方から専門の知識を教えていただける学びは、子どもたちにとって魅力がある。先に可能かどうか分かっていたら来年度の学校の行事予定の中にも取り組みやすい。

事務局:基本的にはどの展覧会も可能。例えば伊丹三樹彦展は、三美会に子どもたちの俳句教室をしていただけたらと思う。先生方は在館されることが多いので、ワークショップをお願いすることは可能。美術館のほうから材料、機材、人数の制限、目安の人数を提案していく。

副会長:いつも吉川小学校からワークショップに来てくださるが、他の三木市内の学校の話聞いたことがない。教育委員会から声掛けはしているのか。

事務局：もっとPRしていかないといけない。吉川小学校はスクールバスを使えるので機会が多い。

校長：年間計画に入れて参加したい。

会長：現時点の来年度事業計画案、原案の通り計画を進める。ワークショップの情報を市内学校関係の方に年末 12 月までを目処に情報を提供する。委員からの意見“堀光美術館の特集を広報みきに掲載”広報担当間との調整は可能か。

事務局：広報の特集は年度末年間計画を立てた上で進めており、今年度中に入れることは難しい。特集は新規事業というものでないと取り上げられない。広報裏面「三木のええとこ」に以前歴史資料館も取り上げられた。美術館もこちらがPRしたいときに、してもらうのいいと思っている。

会長：引き続きお願いする。委員からの質問“万博に関連して令和 7 年開催のイベントに向け、堀光美術館を訪れていただく企画を”。

事務局：縁結び課が近畿経産局と連携し、万博 PR をしている。かつての大阪万博で、金物鷲の展示をした記録があり動いているので、上田桑鳩も一緒に PR 出来ないか提案できる。

会長：委員からの意見“上田桑鳩作品について”。

事務局：桑鳩作品を活用し、書の森川先生ご協力のもと上田桑鳩の「愛」「心」「和」三つの漢字で手づくりの冊子を作り、今年度の上田桑鳩展で来館者にお配りする。できるだけ経費をかけずに、貴重な資料を使ってもっと身近に上田桑鳩を感じていただけるような活動をしていきたい。まずは今年度 10 月 14 日から活用する。

委員：令和 6 年度の市制 70 周年の上田桑鳩展は、展示をするだけか。

事務局：今年度は県立美術館の剣持学芸員の講演会を予定している。市制 70 周年は、桑鳩さんのお身内にお話を伺う、図録を作成するなど考えている。予算の関係があるので、文化・スポーツ課と相談して計画を立てていきたい。

委員：吉川から連れてきた作品、上田さんや飛雲会からの寄贈作品、桑嶋さんのすべての時代の作品が三木に集まっている。この展示を、入館料無料にすることは桑嶋さんに失礼ではないか。市役所や図書館でも開催するというふうに大きく構えて、図録を作って販売すると言う事も考えて欲しい。

事務局：入館料をいただく、図録を作って代金をいただく。当然価値がある以上代金をいただかないといけない。作品の貸出しを有料にするなども、検討する。

委員：三木の上田桑嶋の作品を世間に広めていくべき。市制70周年の図録を作る、入館料をいただくことは決定しているのか。図録を作るのには1年2年かかる。三木が持っているすべての桑嶋作品の図録を作っていたきたい。

会長：お金の取り扱いの問題があるが経費は検討する余地がある、引き続き検討をお願いします。今後、入館料という考え方はしていかななくてはいけない。

校長：関西万博では加西市を拠点とし空飛ぶ自動車を運行使用するようだ、北播領域を往来する人も増えるだろう。時期を合わせてこちら側も「これが推し！」とインフォメーション出来れば、その空飛ぶ車を使って三木市まで足を延ばそうという人もいるのではないか。堀光美術館単独ではなく、当然三木市、北播領域もっと大きなところで話されていくことと考える。

事務局：海外から万博に来た人に兵庫県にも来ていただく取り組み「ひょうごフィールドパビリオン」で、三木市はゴルフを推している。家族のゴルフ待ちの間に、書道や美術で三木市に来ていただけるのではないかと考える。

会長：70周年や万博と、イベントとタイアップすることは非常にポイントになるので、これからもアイデアをお願いします。

閉会 会長挨拶